

令和7年度第2回健康なまちづくり推進協議会会議録(概要)

- 日時:令和8年2月13日(金) 13時~14時35分
- 会場:鶴岡市総合保健福祉センター にこ♥ふる3階 大会議室
- 出席委員
富樫正樹、伊藤亜紀子、工藤つぐ、武田辰哉、七森玲子、千田洋子、
菅原しづ子、佐藤しおり、庄司弘子、秋山美紀、渡會洋子(森福治委員代理)
- 欠席委員
福原晶子、鈴木千春、日向常浩、脇山拓
- アドバイザー 慶應義塾大学教授 武林亨
- 市側出席職員
健康課長 五十嵐亜希、健康課主幹 安部千鶴、
健康課課長補佐 斎藤啓、健康課主査 阿部あやめ、健康課主査 武田幸士、
健康課主査 佐藤剛、健康課主査 佐藤恵美子、健康課主査 大川美紀子、
健康課主査 加藤千幸

- 公開・非公開の別 公開

- 傍聴者 なし

- 次第
 1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 協議
「いきいき健康つるおか21プラン 第2次」について
～情報提供～
鶴岡みらい健康調査について
 4. その他
 5. 閉会

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 協議

(委員) 歯科口腔保健に関する事業に関して、歯科医師会では、生涯を通じた歯科口腔保健を大きなテーマに、今まではう蝕予防と歯周病予防の2大疾患というのが中心になっていた。う蝕の数は子供中心に減っている。しかし、国民全体で見た場合にう蝕の罹患率はまだ30%以上あるため、4000万人ぐらいいる。決して虫歯の治療をしなくてもいいということではなく、むしろ急いでう蝕予防をしなければならないというのは、大前提としてある。歯周病に関しては歯を失う原因の一番となっているため、歯周病という状態をとにかく減少させなければいけない。

今まではこの2つに特化して取り組んできたが、ここ7~8年は、健康寿命を延伸する一番の要因は、食べることが非常に大事だと言われている。食べることに對して、当然う蝕

予防、歯周病予防も効果的ではあるが、口腔機能の維持向上が非常に大事と言われ始めている。

口腔機能に関しては、乳幼児期、学童期に関しては、口腔機能発達不全症という病名が新たにつき、青年期含めた高齢者に関しては、口腔機能低下症という病名が使い分けられるようになった。ただ、なかなか口腔機能低下症ということに関して意識される方は少ないので、なかなか治療に介入できないことがしばしば起きる。詳しく検査などの説明をし、該当する場合は口腔機能低下症のため、今後のことを見据えて、訓練や、指導を受けて欲しいと伝えてはいるが、まだ浸透してない状況がある。歯科医師会としてどのように推進していくかが今後の課題だと思う。

乳幼児期の口腔機能発達不全症に関しても、非常に大事なことのため、小さいうちから保護者と一緒に指導を受けてもらい、何か発達不全がありそうだという場合には、歯科医に相談するというのを、自然にできるように、我々でも少し工夫していかなければならないと思っている。

例えば集団指導に関しては、小さい子供さんは集中して聞くのは大変なため、なかなか集団指導では非常に難しいというのは、すごく意識している。やはり保護者を含めた個別指導で何かできないかと歯科医師会では検討しているところ。個別指導だと保護者も真剣に聞いていただけだと思う。なかなか集団指導だと自分事としてとらえられない場合もあるので、その辺はもう少し工夫が必要だと思っている。乳幼児期は、もう少し検討が必要と考えている。

逆に言うと年配の方にもう少し啓発をしなければという意識があるので、そちらに関しては、もう少し効果的な方法を検討していきたいと思う。

(委員)保育園では、市の栄養士が食事指導ということで、噛む力や、虫歯予防について、パネルなどを使って子供たちにわかりやすく指導している。

やはり口腔機能というところでは、噛む力をつけることが必要なため、小魚やすめるめなどをおやつに取り入れ、噛む力をつけることや、甘いジュースやコーラの糖分をいろんな図で示し、多くの糖分が入っているため虫歯の原因になることを、すごくわかりやすく幼児たちに指導してくれた。歯科衛生士は、歯科衛生士の目線での指導、栄養面からは栄養士の指導と、実際に市の栄養士が工夫して指導しているのを生かし、連携を取りながら親子に働きかけができれば効果があると思う。

(委員)保育園での歯っぴー教室に、ダンスや人形劇など工夫し、子供たちが楽しんで参加している。これがマンパワーで4園しかカバーできなかったのがすごくもったいなかった。

例えば、マンパワー不足の部分を、例えばオーラル予防サポーターみたいなものを、歯科衛生士がリーダーとなって、保育士や若い人とか、いろいろな方にサポーターになってもらい、そのサポーターが保育園や育児サークルに広げていくような、そういうモデルみたいなものをつくれると広がりがでると思う。いわゆるいきいき100歳体操モデルの様な住民のがリーダーとなって次に広げていく、そういった動きができるといいと思う。高齢者のオーラルフレイルもそうだが、何かサポーターなどの育成の取組みはまだないのか。

(事務局)なかなかそこまでの考えが追いついてなかったが、サポーターの方々に知識を普及させるということは、その方々の健康づくりにも繋がっていき、広がりという意味で本当に良いと思う。

新たに作る事なのか、それとも今までのものにプラスアルファで広げていくのかも含めて検討したい。

(委員)庄内監督署管内の労働災害は近年少し増加傾向にあり、50歳以上の中高年労働者の割合がどんどん高くなっている。

労働者全体に占める50歳以上の方の割合は、男性が直近10年間で概ね30%半ばぐらいで推移していて横ばい、女性はじわじわ増加しており、令和6年は女性が約26.3%。被災者に占める50歳以上の女性の割合が、約4人に1人という状況となっている。

50歳以上の被災者のうち転倒災害によって負傷した男性の割合は、ここ10年間で約20%で推移してるが、女性の場合は約60%。50歳以上の女性のけがの原因は6割が転倒という状況となっている。転倒災害でけがをした50歳以上の方のうち、骨折の割合は男性が約60%で推移しているのに対して、女性が70%台、90%ぐらいの年もある。やはり女性の方が圧倒的に転倒しやすく、かつ重症化しやすいという状況が続いていて、去年1年間では転倒でけがをし、休業期間が半年以上という方もいた。こういった実態を踏まえ、今、労働災害で最も多いのは墜落、挟まれ巻き込まれ、交通事故ではなく転倒であり、被災者は圧倒的に50代以上の男女であり、特に女性が多いため、何らかの手立てを行わないと、労働災害も減らないというところをいろんな説明会やセミナー等、また個別に企業を訪問し伝え、一定の理解は示していただける。

方法として、例えば厚生労働省でエイジフレンドリーガイドラインの中で、転倒等リスク評価セルフチェック表がある。自分で体力チェックを行って気づいてもらい、いろんな運動に取り組んでいただく仕組みとなっている。そういったものを紹介した際に、一度は実施するが、なかなかその先に繋がらない。中には、それは会社でやるべきことかと言われるケースもある。やはり、労働損失を考えたときに、これを実施することにより生産性が上がるのではなく、あらかじめ手を打っておくことで、後々にプラスになることを今のうちに実施しておくことが大切だと説明をしているが、なかなか理解いただけない事業主もいる。働く方に直接届くことが大切だと思っているため、労働災害防止の大事な取り組みの一つとして、セミナー参加等も労働時間としてとらえ、事業主がそこにしっかり投資をするという考えを持つことが大事と考える。事業者団体、災害防止団体いろいろあるので、そういったところを経由し、事業者に対して理解を深めるように働きかけることを同時にやっていくべきではないかと思う。

(委員)皆さん健康になりたいという意識はあると思うが、働いている方は時間がない。子供がいる方には、母子モがあるのも、そこに子供の予防接種などの情報と一緒に大人の女性のための健康情報も入れて目に触れるようにする。

それから、職場の中で、10月に行われた講演会のようなものをオンラインで職場から参加できたり、またはオンデマンドで後から職場の中で講演を視聴できるようにするなど、対象の女性だけでなく、管理職の方も耳にすることができる時間があれば届きやすくなるのでは思う。

また、にこふる館内にたくさんのポスターが張られていてとてもいいことだと思うが、にこふるに足を運ばない方も多いと思うので、ショッピングセンターのお手洗いであるとか、買い物に行った時など、日常の中で目に触れるようなところにも啓発ポスターや情報があると届きやすいと思う。

(アドバイザー)特に働く女性の健康の問題は、国ではかなり状況が変わってきている。国の審議会の中では、今後、職域での健康診断の中に、女性の健康に関する項目が新たに追加をされることが正式に決まっています。「女性特有の健康課題(月経困難症、月経前症候群、更年期障害など)で、職場において困ったことがありますか。」という質問が今後追加される。これはもちろん答えるのは任意だが、そういった質問を目にすると、働いている女性は、初めてご自分の体調のことを振り返る大事なチャンスになると思うため、ますます事業主への意識づけを行っていく必要があると思う。

おそらく商工会議所などでもこれから行うのではないと思うが、横の連携の中でどうやって産業保健側が変わってきて、それをこの健康なまちづくり全体の中に取り入れて連携していくかはとても大事なテーマだと思う。

特にこの地域の場合には、比較的人数の少ない事業所で働いている方も多いと思う。そうするとなかなか会社側のアプローチが遠いと思うので、やはり行政がそこにコミットして一緒にやっていくということがとても大事になると思う。これはこれからのまちづくり協議会のテーマとして、数年かけながら全体的な意識を大きく変えるようなことを一緒にやっていくことが大事だと思う。

また、歯科口腔ではオーラルフレイルの話もあったが、フレイル全体を考えると、いわゆる身体的なフレイルと、認知機能が下がるような心理的なフレイル、人のつき合いが減るような社会的なフレイルの3つぐらいあると言われている。おそらく、オーラルフレイルはそれにまたがるような横断的に現れてくるものだと思う。今日の取り組みの中にもあったが、オーラルフレイルというのを1つの切り口にしながら、そこを入口にして、背景にあるフレイル全体にアプローチできるようなことを、ぜひこの協議会の中で一緒に考えていくのではないかなと思った。

それから自殺対策については、SOSの出し方ということと受けとめ方ということを両方実施したことがとてもよかった。これを見てみると、教育分野からは、意外と難しいという感想があったことが、そうだろうなと思いながら見ていた。やはりそこをどう特化するかが大事。特に子供たちの場合には、かなりSNSによって左右される時代であることも感じている。我々の世代だとそこまでSNSに左右されるのかと思うところもあるが、そのギャップをどうやって埋めるかは、続けて重要なテーマだと思う。

母子保健分野では、たばこの問題をずっと取り上げているが、なかなかここから先が苦しいところだと思った。特にたばこに関しては、紙巻きたばこや電子たばこいろいろな吸い方をしている状況になっている。もしかすると加熱式だから大丈夫という意識もあるかもしれないが、今、国ではどちらも同じように有害だといっている。いろいろ情報もあるので、もう少し現場の実態を把握しながら、たばこの問題について考えていく必要があると新たに認識をした。

4. その他

(委員)今日の資料の中の名簿で協議会の会長・副会長がわかるようにしてほしい。資料については、大きい字で作成してほしい。

(事務局)次回より名簿及び資料について修正し作成する。

5. 閉会